

日時：令和5年1月27日(金)10:00~11:30

場所：富山県民会館 509号室

出席者：経営管理部次長（座長）、私学関係者4名、県教育委員会4名、学術振興課長 計10名

1 当面の公私比率のあり方について

(1) 私立の定員について

- ・私学は経営基盤を維持するためにはこれ以上の定員減は受け入れられないというのが基本的なスタンスであり、今後は公私比率ではなく募集定員を維持する方向で考えていけばどうか。
- ・県民性として県立志向ではあるが、最初から私学に行きたい生徒が増えている。今後は、今の生徒数を確保させてもらいたい。

(2) 県立の定員について

- ・県立高校の募集定員について、生徒のニーズに合わせて少しでも希望者を受け入れることができるように設定することが望ましいのではないかと。
- ・今後も一定程度の公私比率が必要ではないかと考えている。
- ・現在の公私比率を少し緩和し、入学定員を柔軟に検討できれば良いのではないかと。
- ・これまでも合意した公私比率に基づいて、適切に学級減や全体の適正規模のために学校数を減らしてきている。今後の生徒減を全て県立というのはどうなのか。県立高校の定員の充足率は下がってきているが、全国的には高い。
- ・県立高校は常に配置及び規模の適正化に努め、私立高校の配置状況を十分に考慮すべきではないかと。
- ・県立高校は2次募集をしても定員が埋まっていないので、2次募集に制限を設けてはどうか。
- ・2次募集を無くすと、県立高校を希望している生徒や保護者の理解が得られないのではないかと。
- ・欠員の状況については重要であるので、分析していかなくてはいけない。
- ・県立の1学級の定員について、40人にこだわらなくてもよいのではないかと。

(3) 保護者負担及び私学助成について

- ・保護者が負担する授業料の公私間格差の解消や、経常費補助金の増額について、県から財政的支援が得られれば、現在の募集定員を当面凍結することも考えられる。

2 魅力向上に向けた取組み

- ・富山県の高校教育の多様性と選択肢を確保し、公私の健全な競争によって魅力向上を図れば良い。
- ・県外では、工業・商業・普通科を統合した高校が増えており、部活動が活性化したメリットがある。その一方で学力差が大きく指導が難しい面もあるが、一つの学校に色々なレベルの生徒がいることも良いのではないか。
- ・県内の学校で、近年増加傾向にある広域通信制を上回る魅力づくりしていくことが今後の対策として必要だ。
- ・それぞれの高校では色々な取組みをしており、学校の魅力を中学生に伝える努力をしている。

3 その他

- ・広域通信制に在籍している生徒への教育内容や卒業後の進路状況等の実態が見えないので把握することが必要である。
- ・公私がどういう役割分担で教育環境を整えていくことが本県の生徒にとって一番望ましいのかという議論が必要である。